A25 新たに見出されたセンチクバエの蛹休眠導入条件について

森林敦子[○]・倉橋 弘・安居院宣昭（国立予防衛生研究所 昆虫医科学部）
平岡 毅（東京農工大学 農学部）

Newfound condition on diapause induction of mature larvae destined for nondiapause in the flesh fly, *Boettcherisca peregrina*

Moribayashi, A., Kurahashi, H., Agui, N. and Hiraoka, T.

センチクバエは、親が受けた日長で次世代の休眠性が決定される。親が長日を受けるとその仔は、非休眠で成長を続け、短日の場合はその仔は蛹で休眠に入る。今回の実験では、短日条件下で100%休眠する Bp(Tokyo) 系統とニューカレドニアで捕獲された短日条件下でも休眠率0%の Bp(NC) 系統を使用した。これらの2系統の終齢幼虫を少量の水の中に入れておくと蛹への変態が抑えられ幼虫のままで生存する。Bp(Tokyo) 系統の変態が阻止された幼虫を短日下におき続けると非休眠に条件付けられたものでも休眠性を示した。休眠性は水処理の日数に応じて高くなり13日間で75%が休眠した。この現象は Bp(NC) 系統では見られなかった。一方、休眠覚醒後の親の仔は、休眠に入らないと一般的に言われているが同様の水処理で休眠するものが現れることも同時に確認した。

A26 生田緑地（多摩丘陵）のモンユスリカ亜科 (Tanypodinae, Chironomidae)

小林 貞（神奈川大学付属高校）

Tanypodinae from the Ikuta Natural Park(Tama Hills)

Kobayashi, T.

1988年10月から1995年10月まで、多摩丘陵の一角にある川崎市の生田緑地にライトトラップを設置し、毎週1回ユスリカの採集を行った。概略100taxa 以上を同定したが、Tanypodinae の詳細な再検討をした結果、10種を確認した。その際、同定上、いくつかの taxa について問題点の存在に気づいた。そこで、今回は、1種であると見られる *Procladius* の生殖器形態の季節変異、および *Psectrotanypus* 属は2種であることを中心に報告する。